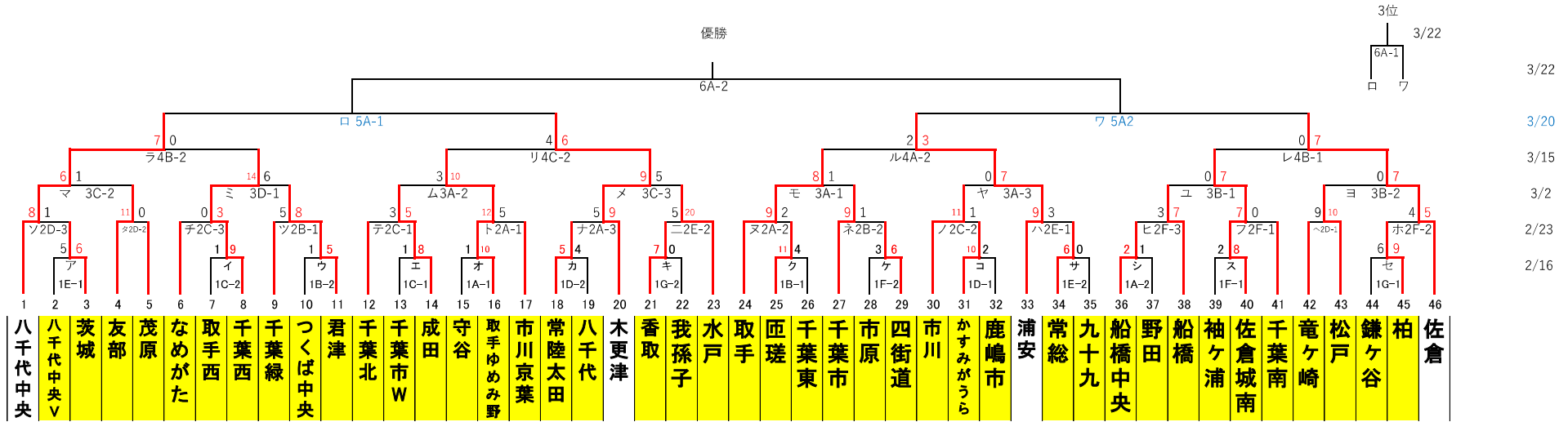


2025 茨城亜鉛工業杯東関東支部春季大会 大会要綱

出場資格	東関東支部茨城ブロック12、千葉(西ブロック11、東ブロック7、南ブロック11チーム)29、計41チームに所属する複数登録チーム含めた登録選手(欠場:土浦・印西)参加46チーム							
関東大会選考方法	支部大会のトーナメントよりベスト4、敗者戦より6チームの、計10チームが春季関東大会に出場する							
日程 試合開始時刻	予定日:2月16日(日)、23日(日)、3月2日(日)、9(日)、15日(土)、16日(日)、20日(祝) ・・・7日間 予備日:中止になった翌週の土曜日、祝日及び日曜日 第一試合9:00、第二試合11:00 第三試合13:00を原則とする							
審判員	支部派遣審判員並びに専任帯同審判							
大会規則	<p>関東連盟大会規則による(同連盟HPにアップされている)。 ただし、決勝戦にも4回10点、5回7点のコールドゲームを適用する(3回13点を取り入れる)。 7回終了時もしくは、2時間を超えては新しいイニングには入らず、タイブレークに入る。(決勝戦も同様) タイブレークは3回まで継続できるが未決着の場合は抽選とする。(決勝戦も同様) 敗者戦も含めて、当初組み合わせ表の若番チームを1塁側とする。 整列してのメンバー確認は行いません。選手カードとメンバー表のみの資格審査となります。 メンバー表記載の際、誤りのないよう注意願います(ポジション、背番号など)。 チームはグラウンド到着後速やかに(60分前までに)メンバー表と選手カードおよび合同チーム、複数出しのチームは登録書を提出願います。 用具確認はこれまでと変わらず実施致します。 投球制限は、日本リトルシニア関東連盟ガイドラインによる(様式Aと無記載の様式Bを本部に提出)。</p>							
荒天時の対応	大雨等明らかに無理な場合を除き、天候不良の場合でも第1試合のチームは、基本的にグラウンド責任者に連絡することなく開始時間1時間前迄に集合すること。 グラウンド責任者は、天候不良の場合、天気予報、グラウンド状態を勘案し 支部競技部長と協議のうえ、極力早く中止又は待機を決定し該当チームに連絡する。 種々の都合により試合時間、グラウンド、審判員の配置等を変更することがある。							
表彰	優勝・準優勝・第3位・第4位							
大会競技委員								
グラウンド提供チーム	千葉ブロック				公営球場			
	チーム名	グラウンド連絡者	携帯番号	駐車台数(マイクロ含む)	チーム名	グラウンド連絡者	携帯番号	駐車台数(マイクロ含む)
	柏			10台(土曜日5台)	TOKIWAスタジアム			15台
	千葉北			10台	山桑球場			12台(大型×)
	木更津			15台(大型×)	大里ふれあい広場			
	君津			20台	石下球場			10台(大型○)
	茂原			10台	友部			20台
	野田			8台(大型×)	取手			20台(大型×)
	佐倉			10台	竜ヶ崎			15台
	九十九			10台	なめがた			10台
<p>グラウンド提供チームにやっていただくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド使用料、審判・役員弁当代の徴収、領収書発行 ・審判及び役員の弁当代手配(700円程度) ・グラウンド責任者は、試合経過を関東連盟のHPにアップする 								
グラウンド使用料 審判役員弁当代等	グラウンド使用料	各チームは、当日朝グラウンド使用料として1試合当たり2,500円を提供チームに支払う。 又、公営グラウンドの場合は3,000円を支払う						
	試合球	試合球は協会の公認契約スポーツメーカーの刻印が確認出来る硬式球とする。 試合開始前メンバー表(5枚)交換時に3球、試合中不足分はその都度抛出する。 試合後試合球は両チームに戻す。						
	ロージン	試合で使用するロージンバックはメンバー表交換時に確認し両チームで管理する。						
	役員及び審判弁当代	各チームは役員及び派遣審判の分として購入金額(800円/人)を出場チームで均等に割った金額を弁当代として提供チームに支払う。						
	審判交通費	派遣審判並びに専任帯同審判の交通費は各チームが、大会終了後支部事務局からの規約に基づく請求により支払うものとする						

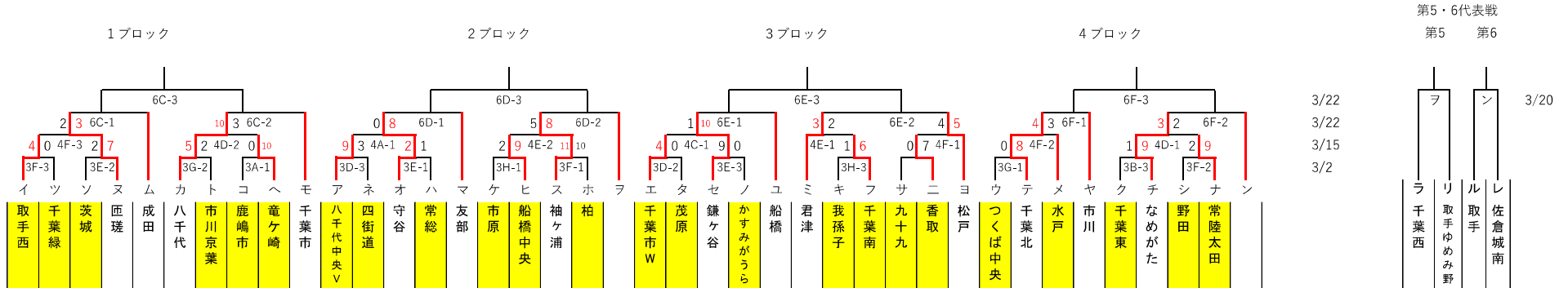
2025年 茨城亜鉛工業杯関東東支部春季大会



3月20日グランド

A千葉県野球場(天台) B柏の葉野球場

敗者復活戦



準々決勝&敗者戦 3月15日 結果

グラウンド	グラウンドタイプ	第1試合		第2試合		第3試合	
A 取手ニアG	B	ア 八千代中央V	オ 守谷	24 取手	33 浦安	-	
B 佐倉ニアG	B	40 佐倉城南	46 佐倉	1 八千代中央	8 千葉西	-	
C 木更津ニアG	B	エ 千葉市W	セ 鎌ヶ谷	16 取手ゆめみ野	20 木更津	-	
D 竜ヶ崎	B	チ なめがた	ナ 常陸太田	カ 八千代	ヘ 竜ヶ崎	-	
E 君津	A	ミ 君津	フ 千葉南	ヒ 船橋中央	ス 袖ヶ浦	-	
F 千葉北	A	ニ 香取	ヨ 松戸	テ 千葉北	メ 水戸	イ 取手西	ヌ 又 2 - 3 匠瑛

準決勝&代表決定戦 3月20日 予定

グラウンド	グラウンドタイプ	第1試合		第2試合		第3試合	
A 千葉県野球場 (天台)	B	1 八千代中央	20 木更津	33 浦安	46 佐倉	-	
B 柏の葉	B	ラ 千葉西	リ 取手ゆめみ野	ル 取手	レ 佐倉城南	-	

決勝・3位決定戦&代表決定戦 3月22日 予定

グラウンド	グラウンドタイプ	3位決定戦		決勝戦		代表決定戦	
A TOKIWA スタジアム	B	-		-		-	
グラウンド	グラウンドタイプ	第1試合		第2試合		代表決定戦	
B 成田ニアG	A	ム 成田	ヌ 匠瑛	カ 八千代	モ 千葉市	第1試合の勝者	第2試合の勝者
C 友部ニアG	B	マ 友部	オ 守谷	ラ	ス 袖ヶ浦	第1試合の勝者	第2試合の勝者
D 君津ニアG	A	ユ 船橋	セ 鎌ヶ谷	ミ 君津	ヨ 松戸	第1試合の勝者	第2試合の勝者
E 千葉北ニアG	A	テ 千葉北	ヤ 市川	チ なめがた	ン	第1試合の勝者	第2試合の勝者

※TOKIWAスタジアム第1試合（3位決定戦）開始時間8：00 ・ 第2試合（決勝戦）10：30開始予定

2024関東連盟秋季大会タイムテーブル

第一試合

※7時30分グラウンド借り入れ会場の場合

Aタイプ (7分7分が有る場合)		Bタイプ (7分7分が無い場合)	
7:40分迄に提出物(※1)を本部席(理事)へ提出して下さい		7:40分迄に提出物(※1)を本部席(理事)へ提出して下さい	
7:30	グラウンド借り入れ 理事・審判員集合・ミーティング	7:30	グラウンド借り入れ 理事・審判員集合・ミーティング
7:40	グラウンド解放 グラウンドイン後ベンチ前に用具を 並べて用具チェック。	7:40	グラウンド解放 グラウンドイン後ベンチ前に用具を 並べて用具チェック。
8:20 (40分前)	※ 攻守決め・バックネット前又は本部席 その後外野でアップ ※寒い時はバッテリーに限りボールの 使用を可能とする場合がある。 (理事の判断)	8:20 (40分前)	※ 攻守決め・バックネット前又は本部席 その後外野でアップ キャッチボール・トスバッティング シートノック迄可能
8:20	トスバッティング (7分以内) &キャッチボール (7分以内)		
8:40	シートノック開始 (7分以内)	8:40	シートノック開始 (7分以内)
9:00	試合開始	9:00	試合開始

※第一試合開始は原則9:00とし、1日3試合予定・天候によっては早めの開始は可能とします。

第二・第三試合

第二試合目以降のチームはグラウンド到着後速やかに提出物(※1)を本部席(理事)への提出をお願い致します。
本部役員はアップ会場や用具チェックの時間やタイミングを説明する。

3回終了を目安に攻守決めを行う。

※用具チェックは原則グラウンドイン後に行う。

※当日のグラウンドコンディションや天候などにより予定のタイムテーブルと異なる事もあります。

※1) 提出物 (選手カード・指導者カード・メンバー表・投球数確認シート (様式A))

グラウンド到着後、速やかに監督が本部席 (理事) への提出をお願い致します。

※今年より選手を並べての資格審査は行いません。(選手カードとメンバー表の照合のみとなります)

リトルシニアの投球数制限に関するガイドライン

Ver. 10.0 2024/10/16

投手の投球制限に関しては、次に掲げるリトルシニア独自のガイドラインに基づくものとする。

- ① 1日最大90球以内とする。(投手A～G)
- ② 連続する2日間で130球以内とする。(投手A・B・C・E・F・G)
- ③ 3連投(連続する3日間)する場合は、1日目45球以内、2日目45球以内とし、3日目の投球数合計を40球以内とする。
但し、1日目、2日目で、当該打者の打席途中で、投球数が45球になった場合は、その時点で投球を打ち切らなければならない。
4連投(連続する4日目)は認めない。(投手D・E・F)
- ④ 上記①②の場合において、打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認め制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。
③の場合3日目のみ打席の途中で制限数に達した場合、該当打者の打席終了まで投球を認め制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。(投手A・D・E・F)
- ⑤ 1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球を可能とする。(投手G)
- ⑥ 打者に対して投じた投球がボークとなった場合は、投球数にカウントする。また12秒及び、20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑦ 申告敬遠はカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。
(例：2ボール・1ストライクとなり申告敬遠をした場合、それまでに投じていた3球は投球数にカウントする。)
- ⑧ 雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑨ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、この統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようにお願いします。

投手の投球数制限における投球可能数のケース

(投球数)

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7日目	予備日
投手A 上記①・②・④	※90(93)	※40(46)	—	90	※40(42)	—	※90(92)	※40(42)
投手B 上記①・②	—	79	※51(56)	—	44	※86(91)	—	※90(92)
投手C 上記①・②	—	—	40	※90(95)	—	89	※41(45)	—
投手D 上記①・③・④	45	45	※40(42)	—	45	45	※40(45)	—
投手E 上記①・②・③・④	45	第一試合 45	—	45	第一試合 23	※40(42)	—	—
		第二試合 ※40(42)			第二試合 22			
投手F 上記①・②・③・④	45	第一試合 48	—	45	第一試合 22	※40(45)	—	—
		第二試合 ※37(39)			第二試合 23			
投手G 上記①・⑤	※90(95)	—	90	—	※90(94)	※40(45)	—	※90(92)

※ () 内は打席の途中で制限数に達し、当該打者の打席終了までに実際に投じた投球数を示す。

< 様式 B > (1試合用)

投球数確認シート

【責任審判員保管(試合終了後)】

日本リトルシニア中学硬式野球協会

大会名 2025茨城亜鉛工業杯東関東支部春季大会

チーム名 :

試合日 : 年 月 日 (第 試合)

球場名 :

< 記入例 >		※上段：投球数を正の字で記入 ※下段左：その回の投球数 ※下段右：累計の投球数											
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB - 1	TB - 2	TB - 3	合計
1	日本 一郎	90 (92) 球	正正正 15 / 15	正正正 T 17 / 32	正正正正 20 / 52	正正正正 20 / 72	正正正正 20/90(92)	/	/	/	/	/	90(92)球

注) 五回、打席の途中で制限数の90球に達し、当該打者の打席終了まで投じた結果、累計の投球数が92球となった例。

【 記入欄 】													
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB - 1	TB - 2	TB - 3	合計
		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球

【投球数制限】

注) 打席の途中で制限数に達し当該打者の打席終了まで投球した場合、制限数を()外、実際に投じた投球数を()内に記入する。

- ① 1日最大90球以内とする。
- ② 連続する2日間で130球以内とする。
- ③ 3連投(連続する3日間)する場合は、1日目45球以内、2日目の投球数を45球以内とし3日目の投球数を40球以内とする。但し、1日目、2日目で、当該打者の打席途中で、投球数が45球になった場合は、その時点で投球を打ち切らなければならない。
- 4連投(連続する4日間)は認めない。
- ④ 上記①②の場合において、打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認め、制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。③の場合3日目のみ打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了まで投球を認め制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。
- ⑤ 1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球可能とする。
- ⑥ 打者に対して投じた投球がボークとなった場合は、投球数にカウントする。また、12秒・20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑦ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。
- ⑧ 雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑨ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

【本シートの運用方法】

・投球数カウント者が様式Aへ転記し、試合終了後、責任審判員が保管する。

投球数制限下での理事及び、審判員の試合前 / 試合中 / 試合終了後の流れ

日本リトルシニア中学硬式野球協会

1. 試合前におけるメンバー表、選手登録証、投球数確認シート等の監督からの受理（理事及び、審判員）

チームが試合会場に到着次第、監督から可及的速やかにメンバー表、選手登録証、投球数確認シート等を預かる。

連戦の場合は、監督から投球数確認シート(様式 A)を預かった際に、理事及び、審判員は各投手の本日の投球可能数を確認しておく。

2. 試合前の攻守決定及び、メンバー表交換（理事及び、審判員）

連戦の場合は、投球数確認シート(様式 A)のコピーを対戦相手チームに渡し、各投手の投球可能数を開示する。

各イニングの表及び、裏が終了した時に投手の投球数をアナウンスすることを伝え、異議がある場合は速やかに球審に申し出てもらうことを監督にお願いし、投手が第一投を投じた後は異議を唱えることはできないことを伝える。

(特に、打者に対して投じた投球がボークとなった場合、公式記録の上では投球数にカウントしないため誤差が生じることとなる)

3. 試合中の投球数管理（対戦する両チームの投球数カウント係）

投球数のカウントは、対戦する両チームの投球数カウント係(父母等)1名ずつの2名体制で行う。

放送係は各イニングの表及び、裏が終了した時に「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球です」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、両チームの投球数カウント係に確認して、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

4. イニング途中での投手交代（対戦する両チームの投球数カウント係）

投手交代時に放送係は選手交代のアナウンス後、「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、上記の3. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

5. 投球可能数に達した時（対戦する両チームの投球数カウント係）

投球可能数に達した場合、「〇〇投手は規定の投球数に達しましたので交代となります」とアナウンスを入れる。ただし、打席の途中で投球可能数に達した場合は、当該打者の打席が終了した時点でアナウンスを入れる。

6. 試合終了後（対戦する両チームの投球数カウント係）

試合終了時もイニング終了時と同様に、「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

投球数カウント係が記入した投球数確認シートの原本(様式 A)は**投球数カウント係がサイン後**、監督へ確認を求め、サインを受ける。

投球数確認シートの原本(様式 A)は監督に返却する。投球数確認シートの原本(様式 B)は、責任審判員が保管する。

万が一、投球数について監督から異議の申し出があった場合は、上記の3. 及び、4. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

以上